

全国月間火山概況

霧島山（新燃岳）では、間欠的に噴火が発生しているものの最盛期の活動に比べ低下した状態で推移しました。このため、3月22日に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え、大きな噴石に対する警戒範囲をこれまでの4kmから3kmへ縮小しました。一方、新燃岳の北西数kmの地下深くのマグマだまりへのマグマの供給は続いており、また、マグマだまりから新燃岳へのマグマの上昇は断続的に続いておりと推定され、噴火活動は今後も続くと考えられます。新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石と火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続しています。

桜島では、昭和火口で爆発的噴火を含む噴火活動の活発な状態で経過しました。今後、引き続き活発な噴火活動が継続する可能性がありますので、火山活動の推移に注意する必要があります。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、やや多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

諏訪之瀬島では、爆発的噴火を含む噴火が時々発生し、噴火活動は活発に経過しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

新潟焼山、焼岳、伊豆東部火山群では、3月31日に噴火警戒レベルを導入し、いずれも噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。

4月8日現在の各火山の噴火警報及び噴火予報等の発表状況は表1のとおりです。

表1 4月8日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

| 警報・予報 | 噴火警戒レベル 及びキーワード | 該当火山 |
|--------------------|--------------------|--|
| 火口周辺警報 | レベル3 (入山規制) | 霧島山（新燃岳）、桜島 |
| | レベル2 (火口周辺規制) | 三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島 |
| | 火口周辺危険 | 硫黄島 |
| 噴火警報及び火山現象に関する海上警報 | 周辺海域警戒 | 福徳岡ノ場 |
| 噴火予報 | レベル1（平常） | 雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島 |
| | 平常 | 知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山 |

（火山の順は活火山総覧（第3版）による）



図1 噴火警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

新潟焼山、焼岳、伊豆東部火山群では、3月31日に噴火警戒レベルを導入し、いずれも噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。

焼岳 【噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)】

2011年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、同日14時57分のマグニチュード4.7の地震をはじめ、山頂直下～北西麓の浅い所での地震活動が活発化し、有感地震も多発しましたが、その後地震活動は次第に低下しました。21日13時15分のマグニチュード4.8の地震以降、再び地震活動が活発化しましたが、その後地震活動は再び低下しつつあります。

火山性微動や低周波地震は観測されませんでした。

噴気の異常は確認されていません。

直接噴火活動に関連するような変化は認められておらず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

富士山 【噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)】

15日22時31分に山頂の南南西約5km、深さ14kmを震源とする静岡県東部の地震（マグニチュード6.4）が発生し、静岡県富士宮市で最大震度6強を観測しました。その後、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加しましたが、地震数は順調に減少しつつあり、余震活動とみられます。

深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況でした。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されませんでした。

山頂部に噴気は認められません。

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

箱根山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

2011年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、駒ヶ岳から芦ノ湖付近と金時山付近を震源とする地震活動が活発化しました。地震活動は14日以降低下しましたが、20日に箱根山付近で一時的に増加しました。また、31日に大涌谷の北で小規模な活動がありました。21日23時14分に神奈川県西部(駒ヶ岳付近)を震源とするマグニチュード4.2の地震が発生し、神奈川県箱根町などで震度2を観測するなど、今期間、その他にも震度2から震度1を観測する地震が発生しています。

火山性微動及び深部低周波地震は観測されませんでした。

早雲地獄の噴気は少ない状態が続いており、噴気の高さは50~200mで経過しました。

体積ひずみ計による地殻変動観測では、火山活動によるとみられる変化は認められませんでした。また神奈川県温泉地学研究所の傾斜計等による観測では、今回の地震活動に関連した変化はありませんでした。

直接噴火活動に関連するような変化は認められておらず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

三宅島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上概ね100~500mで経過しました。

10及び25日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたり600~1,100トン(前回2月24日、1,000トン)で、多量の火山ガス放出が続いています。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態が続いています。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はありませんでした。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続しています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺(雄山環状線内側)では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。

硫黄島 [火口周辺警報(火口周辺危険)]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、2011年2月末頃から地震活動は高い状態にあります。

国土地理院の観測によると、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2010年11月中旬頃から12月にかけて一時鈍化しましたが、2011年1月末頃から隆起速度が増加しています。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部(井戸ヶ浜等)及び南東沖(翁浜沖)では噴火に対する警戒が必要です。

福德岡ノ場 [噴火警報(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測では、これまでも福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

霧島山(新燃岳) [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)] ←3月22日に火口周辺警報を発表し、警報事項を切替(噴火警戒レベル3(入山規制)は継続)。

新燃岳では、間欠的に噴火が発生しているものの最盛期の活動に比べ低下した状態で推移しました。このため、3月22日17時00分に火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)を切り替え、大きな噴石に対する警戒範囲をこれまでの4kmから3kmへ縮小しました。

3月の噴煙の最高高度は13日17時45分の噴火で火口縁上4,000mでした。また、爆発的噴火が1回発生しました(1日19時23分)。これ以降、爆発的噴火は発生していません。いずれの噴火でも火砕流は確認されませんでした。

1日19時23分の爆発的噴火では、新燃岳から東方向の都城市の一部の地域で少量の降灰が確認されたほか、湯之野(新燃岳より南西約3km)の観測点で69.6Paの空振を観測しました。3日18時

08 分の噴火では、降灰の範囲は新燃岳の南東方向へ分布しており、宮崎県の都城市、日南市、宮崎市の一部で確認しました。13 日 17 時 45 分の噴火では、降灰の範囲は主に新燃岳火口から南東方向に分布し、日向灘にまで達していました。また、14 日に行った現地調査では、直径 1～4 cm の小さな噴石（火山れき）が、新燃岳火口から南東方向約 9 km の都城市夏尾町まで降下しているのを確認しました。

新燃岳火口では、1 日から 14 日にかけて夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映が時々観測されました。

火山性地震は、増減を繰り返しながら多い状態で経過し、月回数は 2,262 回（2 月：2,520 回）でした。噴火（爆発的噴火を含む）の前後には火山性地震が頻発することがありました。17～18 日にかけても頻発しましたが、噴火は発生しませんでした。2 月 28 日 07 時 33 分に発生した振幅の小さな火山性微動は、3 月 4 日 11 時 05 分まで継続しました。

九州地方整備局、航空自衛隊芦屋救難隊、航空自衛隊春日ヘリコプター空輸隊、海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊及び陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第 3 飛行隊の協力を得て 2、4、7、11、22 日に実施した上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩の大きさは直径 600m 程度で、大きな変化はありませんでした。また、11 日の調査では、火口内南東側に直径 100m 程度の火孔を確認しました。

気象研究所と防災科学技術研究所が行った、だいち衛星画像（JAXA 提供）の解析では、その後大きな変化はありませんでした。

2 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり 1,300 トンでしたが、その後は 200～500 トンに減少しました（1 月：11,000～12,000 トン、2 月 600 トン）

国土地理院の GPS による地殻変動観測では、新燃岳の北西数 km の地下深くのマグマだまりへのマグマの供給が続いていることを示しています。

高千穂河原傾斜計（新燃岳南東約 3 km）では、噴火（爆発的噴火を含む）の数時間～2 日前に新燃岳側がわずかに隆起し、噴火に伴い沈降して元に戻る変化が時折見られましたが、1 日のように傾斜変化を伴わずに噴火や爆発的噴火が発生する事例や、16～18 日のように傾斜変動が認められても噴火が発生しない事例もありました。これらの傾斜変動はマグマだまりから新燃岳へのマグマの上昇が断続的に続いていることを示すと推定されます。

新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石と火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径 4 cm 程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から 10km を超えて降りました。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)]

桜島では、昭和火口で爆発的噴火を含む噴火活動の活発な状態で経過しました。噴火が 72 回（2 月：142 回）発生し、そのうち爆発的噴火は 57 回（2 月：108 回）でした。これらの噴火に伴い、最も遠くまで飛散した大きな噴石は 4 合目（昭和火口から 800m～1,300m）まで達しました。また、同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

火砕流は、観測されませんでした。

南岳山頂火口では、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過しました。

7、9、16、24 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたり 700 トン～1,700 トン（2 月：300 トン）とやや多い状態でした。

気象庁が桜島島内で行っている GPS 連続観測では、火山活動に起因する特段の変化はありませんでした。有村観測坑道（大隅河川国道事務所設置）の水管傾斜計では、2010 年 7 月頃からみられた山体の沈降傾向は 11 月下旬以降停滞していましたが、火山灰の放出量が多くなった 2011 年 2 月上旬から再び沈降傾向となりました。

また、国土地理院の GPS による地殻変動観測では、始良（あいら）カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられます。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）

に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いており、白色の噴煙が火口縁上概ね200m以下(最高高度は火口縁上400m)で経過しました。また、同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。

振幅が小さく継続時間の短い火山性微動を1回観測しました。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火が時々発生し、噴火活動は活発に経過しました。爆発的噴火は5回(2月:15回)と前期間と比べてやや減少しました。19日12時53分の爆発的噴火では、住民から十島(としま)村役場諏訪瀬島出張所へ、噴石が火口周辺に飛散したとの通報がありました。遠望カメラによる観測では、天候不良のため噴煙や噴石は確認できませんでした。また、同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、A型地震が一時的に増加しましたが、その後減少しています。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では長期にわたり噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

(火山の順は活火山総覧(第3版)による)

資料1 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成23年4月8日現在）

(1) 主な活火山

| | 火山名 | 噴火警報及び噴火予報の発表状況 | 噴火警報及び噴火予報の発表履歴 |
|---------|---------------|---|--|
| 北海道地方 | アトサヌプリ | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 雌阿寒岳 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年9月29日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日 噴火予報（平常） 2008年11月17日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年4月10日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 大雪山 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 十勝岳 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年12月16日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 樽前山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 倶多楽 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 有珠山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年6月9日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 北海道駒ヶ岳 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 恵山 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| 東北地方 | 岩木山 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 秋田焼山 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 岩手山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 秋田駒ヶ岳 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年10月27日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 鳥海山 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 栗駒山 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 蔵王山 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 吾妻山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 安達太良山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常） |
| 磐梯山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常） | |
| 関東・中部地方 | 那須岳 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 日光白根山 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 草津白根山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2009年4月10日 噴火予報（レベル1、平常）切替 |
| | 浅間山 | 噴火予報 | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月1日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月7日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月15日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 新潟焼山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2011年3月31日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 焼岳 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2011年3月31日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 乗鞍岳 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 御嶽山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年3月31日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 白山 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 富士山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| 箱根山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常） | |
| 伊豆東部火山群 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） 2011年3月31日 噴火予報（レベル1、平常） | |

| | 火山名 | 噴火警報及び噴火予報の発表状況 | 噴火警報及び噴火予報の発表履歴 |
|-----------|--------------|-------------------------|---|
| 伊豆・小笠原諸島 | 伊豆大島 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 新島 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 神津島 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 三宅島 | 火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制） | 2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） |
| | 八丈島 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 青ヶ島 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 硫黄島 | 火口周辺警報（火口周辺危険） | 2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険） |
| | 福岡ノ場 | 噴火警報（周辺海域警戒） | 2007年12月1日 噴火警報（周辺海域警戒） |
| 九州地方・南西諸島 | 鶴見岳・伽藍岳 | 噴火予報（平常） | 2007年12月1日 噴火予報（平常） |
| | 九重山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 阿蘇山 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 雲仙岳 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 霧島山 （新燃岳） | 火口周辺警報 （レベル3、入山規制） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月22日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月29日 噴火予報（レベル1、平常） 2010年3月30日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月16日 噴火予報（レベル1、平常） 2010年5月6日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2011年1月26日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2011年1月31日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年2月1日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年3月22日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 |
| | 霧島山（御鉢） | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 桜島 | 火口周辺警報 （レベル3、入山規制） | 2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年2月20日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年4月8日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年7月14日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年7月28日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年8月28日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月2日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月19日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年3月2日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年3月10日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月24日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年7月19日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2010年9月30日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年10月13日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） |
| | 薩摩硫黄島 | 火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制） | 2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） |
| | 口永良部島 | 噴火予報（レベル1、平常） | 2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年1月25日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年9月4日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月27日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年3月18日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年8月4日 噴火予報（レベル1、平常） 2009年9月27日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年10月30日 噴火予報（レベル1、平常） |
| | 諏訪之瀬島 | 火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制） | 2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） |

注) 噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成19年12月1日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。
この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

| | 火 山 名 |
|-------------------|---|
| 北海道地方 | 知床硫黄山、羅臼岳、摩周、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山 |
| 東北地方 | 恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳 |
| 関東・中部地方 | 高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山 |
| 伊豆・小笠原諸島 | 利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山 |
| 中国・九州地方 及び南西諸島 | 三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山 |